

直言曲言：先月、東京都小平市で実施された都道計画見直しの是非を問う住民投票／鳥取

毎日新聞 2013年06月16日 地方版

先月、東京都小平市で実施された都道計画見直しの是非を問う住民投票。投票率は35.17%で、条例で定められた50%の壁を超えられなかったため不成立となった。4月の米子市長選のように投票率が30%台という選挙も最近は珍しくないが、当選が無効になったという話は聞いたことがない。開票もされず票が廃棄されるのは何だかもったいない▲鳥取市では、竹内功市長が今月、新庁舎を新築する「基本的な考え方」を表明。昨年5月の住民投票で多数を占めた現庁舎の「耐震改修案」とは逆行する議論が進んでいる。竹内市長は今後、決断の理由を市民にきちんと説明する必要があるだろう▲憲法改正が参院選の争点となり、国民投票の実施が現実味を帯びる今。“市民の判断”を実際の政治にどう反映させるかは重要な課題で、不合理な理由で無視することは許されない。両市の今後の展開は全国から注目されている。【佐々本浩材】